

3歳児 D 児 事例④

3歳児D児 事例④

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
関目 次郎	男		3歳児：〇〇 △△	令和7年度 ・電車（乗り物）が好き。 ・語彙が少ない。	身体障害者手帳（ 手帳 級） 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日			
		R7.4.1			
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報			
令和5年度 ・〇区保健福祉センター（〇〇保健師） 06-6××-×××× 令和6年度 ・〇区家庭児童相談室（家庭児童相談員△さん）	令和5年度 ・令和5年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：「視線が合いにくい」と指摘される。 令和6年度 ・令和6年〇月〇日 〇区保健福祉センターの紹介で、母子で通所を開始。（年3クール 1クール4回、1回につき90分程度） 令和7年度 ・保育園入園により、母子通所は継続なし。				
保護者の願い	支援の目標・内容				
令和7年度 ・落ち着いて、行動できるようになってほしい。 ・友達と仲良く遊んでほしい。	令和7年度 ・みんなで活動するときの約束やきまりを知り、守ろうとすることができるように、環境を整えながら繰り返し知らせていく。 ・好きな友達ができ、一緒に過ごす楽しさを感じることができるように、保育者が仲立ちとなって関係をつないでいく。				
この計画内容を確認しました。	令和 年 月 日		保護者名		

(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。 令和 年 月 日 保護者名

児童名 関目 次郎		家庭の様子： 弟が2歳児に入園し、一緒に登園できることを喜んでいる。弟の連絡ノートに、兄弟の家での様子を記入してくることが多い。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会で、自分の座る場所が分からずウロウロしている。 誘導され自席に座るが、すぐに立ち上がり保育室から出ていく。 自ら2歳児の保育室に行き、玩具を出して遊びだすと機嫌よくしている。特に、電車の玩具が好きで、寝転んで、線路の上を走らせている。 園庭で遊ぶことが好き。コンピカー、三輪車等に真っ先に向かうと、外遊びの間中、ご機嫌で走っている。三輪車を漕ぐのも上手。 園庭に出るときに、帽子を投げ、怒りだすことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会に参加する。 帽子を投げずにかぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座る場所が分かるように、椅子に付けているマークを大きくする。 〈座ります〉カードを見せ、朝の会は座って参加するように促す。 園庭に出るには、まず帽子をかぶることが分かるように、〈帽子をかぶります〉カードを全員が見える場所に貼り、クラスルールであることを伝える。 「帽子をかぶります」と声をかけ、怒らずにかぶれたときは褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子のマークもカードも、あまり見ない。 2歳児の部屋に行くことや、保育室から出ることは少なくなる。 自席に座ることは少ない。 朝の会で歌を歌うと、怒りだすことがある。 園庭に出るとき、帽子をかぶらずに外に出ようとする。 カードは、あまり見ない。 「〇君、帽子をかぶります」と声をかけると、怒りだすこともあるが、渋々応じて、部屋に帽子を取りに戻ろうとすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に貼っている自分のマークが分かりにくいので、座る場所が分からないのかと思い、マークを大きくしてみたり、〈座ります〉カードを見せてみたりしたが、視覚支援はあまり有効ではないことが分かった。 ねらいが漠然としていて、物的な支援しかできなかった。他の場面でも、怒りだす姿が見られるようになってきたので、行動をもっと観察し、困りを見極め、具体的なねらいと支援・手立てを考えていく。 怒りだして帽子を投げる姿から、帽子をかぶらずに外に出ようとする姿に変わってきたのは、友達よりも早く、三輪車等に乗りたい気持ちからきていると思われる。 保育者が個別に声をかけると応じる姿も見られるようになってきたので、怒らずに帽子を取りに行きかぶったときにもタイミングを逃さずに、認める言葉をかけていくようにする。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

児童名 関目 次郎		家庭の様子：2歳児の弟と一緒に、電車の玩具で遊ぶことが多い。線路をつなげて一定の場所で電車を動かしており、線路中を走らせた弟の動きと合わずに、トラブルになることが増えてきている。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子のマークや、〈座ります〉カードをあまり見ず、自席に座ることは少ない。 ・2歳児の部屋に行くことや、保育室から出ることは少なくなる。 ・朝の会で歌を歌うと、怒りだすことがある。 ・園庭に出るとき、帽子をかぶらずに外に出ようとする。 ・カードは、あまり見ない。 ・「〇君、帽子をかぶります」と声をかけると、怒りだすこともあるが、渋々応じて、部屋に帽子を取りに戻ろうとすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊び(電車)をしながら、朝の会に参加する。 ・園庭に出るときは、帽子をかぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会に参加できるように、2歳児室から電車の玩具を借りてきて、自席の机上で動かして遊べるようにする。 ・朝の時間を5分で終わらせるように、担任間で連携する。 ・帽子をかぶったら園庭で遊べるのが分かるように、クラス全体の掲示を保育室の出入口に貼り、外に出るときに視線に入るようにする。 ・保育者自身が目の前で帽子をかぶり、「先生もかぶるよ。〇君もかぶろうね」「帽子を取りにいけてすごいね!」「先生と〇君、一緒だね。お外でいっぱい遊ぼうね」など、タイミングを逃さずに認め、共感する言葉をかける。 ・友達よりも早く、三輪車等に乗りたい気持ちを理解し、まずは、その気持ちが満たされるように他児との調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの電車の玩具2個を持ち、机上に顔を横向けながら動かすことを喜び、朝の会(5分)の間、座っている。 ・歌が始まると、怒りだす。 ・〈帽子をかぶります〉カードに気付くことが増え、かぶっていないと「あっ!」と言って、取りに戻るようになる。 ・声をかけられると、うんうんと頷き、機嫌よく外に出る。 ・外遊びの時間中、ずっと三輪車等に乗っているが、友達との関わりはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスには電車の玩具を置いていないので、2歳児クラスから電車の玩具を借りることができたことで、朝の会に参加することができ、ねらいは達成した。 ・電車で遊んでいても、歌が始まると怒りだすのはなぜなのかを探るために、担任間での観察と理解を続ける。 ・ねらいは達成した。 ・視覚支援は有効ではないかと感じたが、掲示の仕方を工夫することや、外に行くために必要なことであることを繰り返し知らせていくことで、困りの解消につながった。 ・また、物的環境だけでなく、人的環境にもウエイトを置き、言葉をかけることに加えて、遊びたい気持ちが満たされることを優先した手立てを実践できた。 ・次月は、好きな遊びを通して、友達への関心につなげていく。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

3歳児D児 事例④

(7 月 ~ 8 月)

(保育園)

児童名 関目 次郎		家庭の様子： 弟と電車の玩具でトラブルになったときに、弟は「やめて」「どいて」など思いを発するが、泣いて怒るだけで言葉では思いを発しないことを、母親は心配している。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 3 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
言語	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの電車の玩具2個を持ち、机上に顔を横向けながら動かすことを喜び、朝の会（5分）の間、座っている。 電車で遊んでいても、歌が始まると怒りだす。 〈帽子をかぶります〉カードに気付くことが増え、かぶっていないと「あっ!」と言って、取りに戻るようになる。 「先生もかぶるよ。〇君もかぶろうね」「帽子を取りにいけてすごだね!」「先生と〇君、一緒だね。お外でいっぱい遊ぼうね」声をかけられると、うんうんと頷き、機嫌よく外に出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌が嫌という気持ちを、保育者に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを出せるように、〇君の気持ちや表現しようとしている姿を受け止め、言葉を引き出していく。 怒りの感情を受け止め、適切な言葉を知らせる。 			
認識	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの時間中、ずっと三輪車等に乗っているが、友達との関わりはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 三輪車等に乗っている友達（△児）のことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを通して、同じ遊びをしている友達の存在に気付くことができるように、保育者が仲立ちとなる。 「〇君と△君、同じ三輪車だね」「△君と一緒に、この道（水線で書いた道）走ろうか」と声をかける。 			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

3歳児 D 児 事例④ ポイント挿入

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記する。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
<p>関係諸機関及び担当者名を記入する。病院であれば主治医名、福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくとう望ましい。</p>		<p>入所年月日</p>	<p>3歳児：〇〇 △△</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電車（乗り物）が好き。 語彙が少ない。 	<p>特性や診断名だけでなく、個別の指導計画立案時点での姿を記載する。子ども理解が進んでいく中で見えてくる、得意なことを記載することで、子どもの得意なことからもアプローチしていける。</p>
医療・相談機関		<p>「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて書く。</p>			
<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇区保健福祉センター（〇〇保健師） 06-6××-×××× <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇区家庭児童相談室（家庭児童相談員△さん） 	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：「視線が合いにくい」と指摘される。 <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年〇月〇日 〇区保健福祉センターの紹介で、母子で通所を開始。（年3クール 1クール4回、1回につき90分程度） <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園入園により、母子通所は継続なし。 	<p>この欄には、主観が入らないように気を付け、客観的事実を記載する。</p>			
保護者の願い	支援の目標・内容				
<p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて、行動できるようになってほしい。 友達と仲良く遊んでほしい。 	<p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで活動するときの約束やきまりを知り、守ろうとすることができるように、環境を整えながら繰り返し知らせしていく。 好きな友達ができ、一緒に過ごす楽しさを感じることができるように、保育者が仲立ちとなって関係をつないでいく。 				
<p>この計画内容を確認しました。</p>		<p>令和 年 月 日</p>		<p>保護者名</p>	

就学前教育カリキュラム P55.56
「3歳児カリキュラム」参照

支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。施設での子どもの姿を保護者と共有し、ともにできる手立てを考える。

児童名	関目 次郎		家庭の様子： 弟が2歳児に入園し、一緒に登園できることを喜んでいる。母は、弟の連絡ノートに兄弟の家での様子を記入してくることが多い。		「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。
クラス年齢	下線部分の姿を、「なぜ？」の視点から見直すことが子ども理解につながり、アセスメントの方法を探っていくことができる。				
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会で、自分の座る場所が分からずウロウロしている。→困っている。 誘導され自席に座るが、すぐに立ち上がり保育室から出ていく。 自ら2歳児の保育室に行き、玩具を出して遊びだすと機嫌よくしている。特に、電車の玩具が好きで、寝転んで、線路の上を走らせている。 園庭で遊ぶことが好き。コンピカー、三輪車等に真っ先に向かうと、外遊びの間中、ご機嫌で走っている。三輪車を漕ぐのも上手。 園庭に出るときに、帽子を投げ、怒りだすことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会に参加する。 否定的な表現には気を付ける。 2歳児の保育室に行くのは「なぜ？」と考えることが大切。【家庭の様子】から読み取ることができる。 子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。 帽子を投げずにかぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座る場所が分かるように、椅子に付けているマークを大きくする。 〈座ります〉カードを見せ、朝の会は座って参加するように促す。 支援と手立ては、人的・物的環境面と、援助面の両面から考えることが望ましいので、両面からとなっているかどうかを見直すことが大切。 園庭に出るには、まず帽子をかぶることが分かるように、〈帽子をかぶります〉カードを全員が見える場所に貼り、クラスルールであることを伝える。 「帽子をかぶります」と声をかけ、怒らずにかぶれた時は褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子のマークもカードも、あまり見ない。 2歳児の部屋に行くことや、保育室から出ることは少なくなる。 自席に座ることは少ない。 朝の会で歌を歌うと、怒りだすことがある。 園庭に出る時、帽子をかぶらずに外に出ようとする。 カードは、あまり見ない。 「〇君、帽子をかぶります」と声をかけると、怒りだすこともあるが、渋々応じて、部屋へ帽子を取りに戻ることもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に貼っている自分のマークが分かりにくいので、座る場所が分からないのかと思い、マークを大きくしてみたり、〈座ります〉カードを見せてみたりしたが、視覚支援はあまり有効ではないことが分かった。 ねらいが漠然としていて、物的な支援しかできなかった。他の場面でも、怒りだす姿が見られるようになってきたので、行動をもっと観察し、困りを見極め、具体的なねらいと支援・手立てを考えていく。 怒りだして帽子を投げる姿から、帽子をかぶらずに外に出ようとする姿に変わってきたのは、友達よりも早く、三輪車等に乗りたい気持ちからきていると思われる。 保育者が個別に声をかけると応じる姿も見られるようになってきたので、怒らずに帽子を取りに行きかぶったときにもタイミングを逃さずに、認める言葉をかけていくようにする。
この計画内容を確認しました。		早く外に出たい 帽子をかぶるのが嫌	怒りだすのは「なぜ？」	怒りだすのはなぜなのか？ということを考え、次の支援を考えることが大切。	できたことを認めたり、ともに喜ぶことは、自信になり次につながる援助である。

令和 年 月

3歳児D児 事例④ (ポイント挿入)

6 月

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。施設での子どもの姿を保護者と共有し、ともにできる手立てを考える。

前月からのつながり

前月の【具体的な状況】に記載したことを、翌月の【児童の姿】に記入する。

スモールステップで、具体的なねらいを立てる。

前月のねらいが漠然としていたことを【評価・今後の課題】に記載したので、具体的なねらいと支援・手立てを考える。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 椅子のマークや、〈座ります〉カードをあまり見ず、自席に座ることは少ない。 2歳児の部屋に行くことや、保育室から出ることは少なくなる。 朝の会で歌を歌うと、怒りだすことがある。 園庭に出るとき、帽子をかぶらずに外に出ようとする。 カードは、あまり見ない。 「〇君、帽子をかぶります」と声をかけると、怒りだすこともあるが、<u>渋々応じて、部屋に帽子を取りに戻ろうとする</u>こともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊び(電車)をしながら、朝の会に参加する。 前月は、ねらいが漠然としていたので、好きなことを通して支援を行っていく。 園庭に出るときは、帽子をかぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会に参加できるように、2歳児室から電車の玩具を借りてきて、自席の机上で動かして遊べるようにする。 朝の時間を5分で終わらせるように、担任間で連携する。 すぐにねらいに置かなくても、気になる姿は観察を続け、子どもの困りを探っていく。 帽子をかぶったら園庭で遊べるようになるように、クラス全体の掲示を保育室の出入口に貼り、外に出るときに視線に入るようにする。 保育者自身が目の前で帽子をかぶり、「先生もかぶるよ。〇君もかぶろうね」「帽子を取りにいけてすごいね!」「先生と〇君、一緒だね。お外でいっぱい遊ぼうね」など、タイミングを逃さずに認め、共感する言葉をかける。 友達よりも早く、三輪車等に乗りたい気持ちを理解し、まずは、その気持ちが満たされるように他児との調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの電車の玩具2個を持ち、机の上に顔を横向けながら動かすことを喜び、朝の会(5分)の間、座っている。 歌が始まると、怒りだす。 〈帽子をかぶります〉カードに気付くことが増え、かぶっていないと「あっ!」と言って、取りに戻るようになる。 声をかけられると、うんざりと顔つき、機嫌よく外へ出る。 前月に上手いかなかった手立てであっても、再度見直すことも必要。 外遊びの時間中、ずっと三輪車等に乗っているが、友達との関わりはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスには電車の玩具を置いていないので、2歳児クラスから電車の玩具を借りることができ、朝の会に参加することができ、ねらいは達成した。 電車で遊んでいても、歌が始まると怒りだすのはなぜなのかを探るために、担任間での観察と理解を続ける。 ねらいは達成した。 視覚支援は有効ではないかと感じたが、掲示の仕方を工夫することや、外に行くために必要なことであることを繰り返し知らせていくことで、困りの解消につながった。 また、物的環境だけでなく、人的環境にもウエイトを置き、言葉をかけることに加えて、遊びたい気持ちが満たされることを優先した手立てを実践できた。 次月は、好きな遊びを通して、友達への関心につなげていく。

怒りだすのは「なぜ?」

児童の姿の変化と、その理由を理解し、児童の願いが叶うような手立てを考えていく。

すぐにねらいに置かなくても、気になる姿は観察を続け、子どもの困りを探っていく。

前月に上手いかなかった手立てであっても、再度見直すことも必要。

前月の【評価・今後の課題】に記載した内容を踏まえ、支援と手立ての内容を具体的に記載する。

この計画内容を確認しました。

保護者名

「生活」から「認識」面の支援へ。

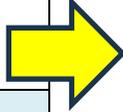
3歳児D児 事例④ (ポイント挿入)

7月～8月

(

保育園)

<p>児童名</p>	<p>関目 次郎</p>	<p>家庭の様子： 弟と電車の玩具でトラブルになったときに、弟は「やめて」「どいて」など思いを発するが、泣いて怒るだけで言葉では思いを発しないことを、母親は心配している。</p>	<p>園長</p>	<p>担任(作成者)</p>	
<p>前月からのつながり</p>	<p>すぐにねらいに置かなくても、気になる姿は観察を続け、子どもの困りを探っていくと、家庭での様子に、さらに具体的な姿が見える。自分の要求を言葉で表現することの弱さがあることが、「怒る」という姿になっていることを理解する。</p>		<p>個別の計画なので、文中に「本児」と書く必要はない。記載内容によって必要であれば、「対象児」或いは「〇君」「△さん」等、日常の呼び方で記載すれば良い。</p>		
<p>項目</p>	<p>・お気に入りの電車の玩具2個を持ち、机の上に顔を横向きながら動かすことを喜び、朝の会(5分)の間、座っている。 ・電車で遊んでも、歌が始まると怒りだす。 ・〈帽子をかぶります〉カードに気付くことが増え、かぶっていないと「あっ!」と言って、取りに戻るようになる。 ・「先生もかぶるよ。〇君もかぶろうね」「帽子を取りにいけてすごいね!」「先生と〇君、一緒だね。お外でいっぱい遊ぼうね」声をかけられると、うんうんと頷き、機嫌よく外に出る。 ・外遊びの時間中、ずっと三輪車等に乗っているが、友達との関わりはほとんどない。</p>	<p>・歌が嫌という気持ちを、保育者に伝えようとする。</p> <p>前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。</p> <p>・三輪車等に乗っている友達(△児)のことに気付く。</p> <p>「生活」から「認識」面への支援へ。</p>	<p>・自分の思いを出せるように、〇君の気持ちや表現しようとしている姿を受け止め、言葉を引き出していく。 ・怒りの感情を受け止め、適切な言葉を知らせる。</p> <p>就学前教育カリキュラム P57.58 「3歳児ラーニングデザイン」参照</p> <p>・好きな遊びを通して、同じ遊びをしている友達の存在に気付くことができるように、保育者が仲立ちとなる。 ・「〇君と△君、同じ三輪車だね」「△君と一緒に、この道(水線で書いた道)走ろうか」と声をかける。</p>	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中で子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <p>新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。</p> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性(ねらいとして置こうと考えること)について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p>
<p>この計画内容を確認しました。</p>	<p>令和 年 月 日</p>		<p>保護者名</p>		



すぐにねらいに置かなくても、気になる姿は観察を続け、子どもの困りを探っていくと、家庭での様子に、さらに具体的な姿が見える。自分の要求を言葉で表現することの弱さがあることが、「怒る」という姿になっていることを理解する。

個別の計画なので、文中に「本児」と書く必要はない。記載内容によって必要であれば、「対象児」或いは「〇君」「△さん」等、日常の呼び方で記載すれば良い。

前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。

就学前教育カリキュラム P57.58 「3歳児ラーニングデザイン」参照

「生活」から「認識」面への支援へ。

前月からのつながりを意識して、記載も横のつながりを意識する。

「具体的な支援・手立て」を行った中で子どもの姿を具体的に記載する。

この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

ねらいが達成できたときは、次の方向性(ねらいとして置こうと考えること)について記載しておくことで、計画がつながっていく。